

力学現象解明への挑戦 ―現状と課題―

企画趣旨

応用力学委員会委員長
檜山和男（中央大学）

力学現象を理解・解明するための学問である理論力学、実験力学、計算力学の発展により、土木工学に関わる数多くの力学現象が解明され、安全で快適な社会基盤の構築のために貢献してきた。

本パネルディスカッションでは、鋼・コンクリート・地盤・流体などの各分野における典型的かつ工学的に重要な力学現象が、これらの学問の寄与によりどの程度まで解明され、どのようなブレークスルーが可能となりつつあるのかといった視点で現状を把握するとともに、残されている課題ならびに今後の方向性について議論する。

パネリストと講演題目は、以下の通りである。

三木千壽（東京工業大学）：鋼構造分野での現状と課題

二羽淳一郎（東京工業大学）：コンクリート構造分野での現状と課題

浅岡顕（(財)地震予知総合研究振興会）：地盤力学/工学分野での現状と課題

山田正（中央大学）：水工学分野での現状と課題